

少女雑誌の部屋より

少女雑誌の部屋だより『わすれなぐさ』をご覧くださいましてありがとうございます。
毎月1回、少女雑誌にまつわるさまざまな事柄をテーマにしてお届けしておりますが、
今月は当館のコレクションについてご紹介いたします。中には「漫画誌」のコレクションと
思われている方がいらっしゃるため定期的にお伝えしているのですが、当館が主に収集
しておりますのは漫画誌に移り変わる以前に発行されていた10代の少女向けの雑誌です。
そのほとんどはどこかの誰かが読んでいたものですので状態が悪いものもありますが、
さまざまな状況をくぐりぬけて残っているということ自体に感動をおぼえます。紙の資料は
どうしても劣化してしましますが、できるだけよい状態で後世に残せるように、しっかりと
管理していきたいと思っております。

少女雑誌コレクション



菊陽町図書館では、明治30年代から昭和40年代に発行された少女向け雑誌のうち、
主に「連載小説が掲載されているもの」を「少女雑誌」と定義し、少女雑誌（72誌）と
そのふろく、少女雑誌の流れをくむ少女漫画雑誌、その他関連資料を所蔵しています。
対象年齢は現在の小学校高学年から高校生くらいの10代の少女たちで、内容は、小説、詩、
ファッション、ヘアスタイル、インテリア、料理、芸能、手芸など多岐にわたります。
ちょうど現代の文芸誌とファッション誌を合わせたような総合誌であったと言えます。
そのため、戦前の文化や児童文学、漫画の黎明期等について研究をする上でも
大変貴重な資料として注目されています。

明治～大正時代

明治35年（1902）
日本で初めての少女雑誌
『少女界』（金港堂書籍）が
誕生しました。
明治時代の少女雑誌は
「良妻賢母」を育てる
ことを目的として作られ
ていました。
大正時代になると
たくさんの少女雑誌が発行
されるようになり
娯楽中心の楽しい雑誌
であることが重視
されました。

昭和時代（戦前）

昭和12年（1937）
日中戦争が始まると
雑誌の中にも戦争に関する
記述が少しずつ見られる
ようになりました。
昭和16年（1941）の太平洋
戦争開戦後は、言論統制や
パルプ資源の節約を目的
として出版社や雑誌の
統廃合がすすめられ
昭和19年（1944）には
少女雑誌は『少女の友』と
『少女倶楽部』の2誌だけ
になりました。

昭和時代（戦後）

戦後、徐々に雑誌の数も
増えていきました。
戦時中と同じく、紙不足の
状況は続いていましたが
情報入手のために雑誌は
とても大切な存在でした。
テレビ出現の影響により
昭和30年代になると
次第に漫画の占める
割合が増え
漫画雑誌へと移り
変わっていきました。

